

見に行く? 参加する? くるめのボランティア活動・地域活動

一般社団法人 アカルカ福祉協会
代表理事 田中 崇さん
TEL 0942-36-7070
http://www.facebook.com/akarukafukushi



Chietsuku project(チエツクプロジェクト)
代表 西原 健太さん
TEL 0942-34-1861
http://chietsuku.wix.com/chietsuku



久留米市内で活動するボランティア団体やNPO(法人)は450以上あります。その中から今回は、これまでボランティア活動をしたことがない方でも はじめの一步を踏み出しやすい活動を紹介します。

善導寺団地ひまわり女性の会
会長 井戸 美子さん
TEL 0942-47-0561



鳥飼校区防犯協会
会長 大鶴 秀男さん
TEL 0942-33-4534



障害者就労事業所によるマルシェ

福祉事業に携わる人材の育成やネットワークづくりが必要だと感じ、久留米の福祉を盛り上げていきたいという思いから、活動をスタートしました。

平成28年2月20日には、30もの障害者福祉の就労系事業所が集まり、「キラリ☆マルシェ」を開催します。事業所でつくった商品の販売を通して、障害のある方の働く姿を見たり、思いを聴いたりできる場です。また、岡山県総社市の市長による「障害者1,000人雇用の実践について」をテーマにした講演会も開催します。

その他には、4事業所が集まって商品を展示・販売する「プチマルシェ」や、障害福祉サービスを効果的に利用するための計画づくりの講座などを開催しています。



◆やりがい

マルシェへの出店・協力を通して、福祉事業所とのつながりができ始めたと感じています。

また、障害があっても「同じ市民の一員なんだ」という啓発をしていくため、企画段階から若い人たちと一緒にディスカッションし、次世代への引き継ぎをすることで福祉の現場を盛り上げていきたいです。

「キラリ☆マルシェ」は、子どもから大人まで、楽しんでいただける場です。

皆さんにぜひ来てもらいたいです。



マルシェ参加者
「花とお日さま」代表
若松 由美さん



キラリ☆マルシェなどの企画に、思いを共感しました。自分たちで商品をつくり販売までできることは、働く自信と自立への一歩となります。マルシェを通して、他の事業所の皆さんとつながりが持てました。

この街で、みんなで、食っていくんです!

活動のきっかけは、「久留米の将来へ熱い気持ちで活動している人たちがつなげられる場をつくりたいと思ったことです。メンバーは、多くが進学や就職のために一度久留米を離れたUターン組です。

久留米のよさをPRするために、自分たちに何ができるのかを語り合い、久留米の魅力に気づき、そして発信していく活動をしています。最初の企画は、さまざまな地域でまちの力となり、活躍している人を県外から講師として招く「知恵つく講座」です。「この街で、みんなで、食っていくんです!」をコンセプトにまちづくりに関心のある仲間たちと知恵の共有を図ってきました。

また、市と連携して、市外の方にも久留米を好きになって、訪れてもらうための「久留米移住計画」、コミュニティをデザインする講師と筑後地方を見て回り、モニターツアーを企画する「ちくごじまん」、久留米餅のPR活動等も行っています。



◆やりがい

久留米で「なかなか横のつながりができない」などの悩みや苦勞を抱えていたメンバーが同じ目的に向かって一緒に活動できるので楽しいです。

この活動を通して、一人でも多くの方に久留米の魅力伝えていきたいです。私たちと一緒に久留米を盛り上げていきませんか?

ちくごじまん。企画者
井上 雅貴さん



最初のきっかけは「面白そう!!」と思ったこと。参加者が個性的な人ばかりだったので、この人たちと一緒にいたら、おもしろい企画ができると思いました。今では、ここでのつながりが、本職の映像クリエイターの仕事に、活かされています。

ひまわりのように明るいサロン

善導寺団地でも、一人暮らしの高齢者の方が増え、お話をしたり、何か作ったりできる会を開いてほしいという声が上がってきたことが活動のきっかけです。

初めは何をしていいかわからなかったのですが、まずは得意な手芸でしめ縄づくりをしてみることになりました。地域の高齢の女性を対象として、月2回のサロンを開くことを回覧板でお知らせしたら、20人ほどが集まりました。会員の趣味を生かして、アクリルたわしづくりなどのさまざまな手芸を考えて、みんなで取り組んでいます。また、歌やゲーム、大勢での食事は、一人暮らしではできないことなので、とても楽しんでいます。



◆やりがい

参加者から「サロンに来るのが楽しいです」と聞いたり、口コミで仲間が増えたことがうれしいです。

隣近所で孤立した人がいなくなるように、挨拶だけでなく、気軽におしゃべりができる地域を目指して活動しています。最近では、お互いに自分のできることを見つけて実践していただいているので、うれしく感じています。

サロンに参加される皆さんが「もう〇〇歳だから」ではなく、「まだ〇〇歳」という気持ちになってほしいです。このような小さなサロンを開いて活動をしている他の団体の方とも交流をしていきたいです。

サロン参加者
櫻井 幸子さん



近所の方からお誘いがあったので、毎回参加しています。お互いにお茶の用意などをして支えあっています。団地内で、少し住まいが離れている人と「お元気ですか?」と気軽に話せるようになったことがよかったです。

青パトを活用した安全・安心パトロール

地域の方が安全・安心に暮らしていける校区にしたいという思いから活動をスタートしました。

主な活動は、青パトを利用した地域内パトロールや徒歩での巡回です。月曜から金曜まで、朝・昼・夜に2~3人1組体制で見回っています。



初めは、自家用車に青色回転灯をつけていましたが、現在は専用のパトロールカーを増やして2台で活動しています。平成27年11月から校区内初の女性メンバーを含む15名が増え、合わせて47名になりました。

登下校時を中心に、見回り活動をすることで、犯罪の未然防止、地域の皆さんとの連携強化を目指しています。また、台風などのときは避難所開設の呼びかけもしています。

活動のポイントは、ただ巡回するのではなく、犯罪や事故が発生しやすい場所を把握し、意識しながらパトロールすることです。

◆やりがい

初めは、子どもたちに知られていませんでしたが、今では、顔を見て手を振って挨拶してくれるようになったことがうれしいです。また、小学生が感謝の気持ちとして、ひまわりの種を渡してくれたこともありました。

今後も、校区住民の安全・安心に努めていきたいです。



パトロール隊員
堀田 次明さん / 宮原 秀彦さん



放課後の子どもたちのことが心配で活動を始めました。子どもたちからも挨拶してもらえようになり、地域とつながりを感じられることがやりがいです。